現代集落～双対村～

1140072　古味　亜弓実
高知工科大学　システム工学群　建築・都市デザイン専攻

Key Word　集落・曽我部橋・トラス・双対

1. 集落

集落とは、【人が集まり住んでいる所。住居の集まりの総称。】と簡単に定義されている。（地理学辞典）

しかし、実際の集落をみると、定義されている内容では、表現できていない。海に最も近い場所に住む漁村。街道沿いに店を設けたいが故に、土地を張り出させて住む商店の村。安定した水利が得られ、用水の管理が容易な、斜面地に住む農村。実態から見ると、集落とは、共通の生業をベースに、同じ欲求を持つ人が集まり、暮らす場所であると言える。

漁村（伊予の舟屋）　商店の村（長野県の崖造り）　農村（高知県斜面地の村）

同じ欲求のもと集まり、暮らすということが、集落の本質である。共通の生業を中心に集まり、暮らしているため、同じ欲求が生活形態に現れている。また、繋がりも強い。

欲求を満たすために、過酷な土地でも、建築方法を工夫し、暮らしているため、力強く面白い空間が生まれていると考えた。

2. 現代の暮らし

2-1. 暮らし

現在の生業の多くは土地から離れ、多種多様であり、都市部に集中している。一方で、暮らしの場は都市部周辺に分散している。生業と暮らしの場は、分離している。これを可能にしたのは、進んだインフラ整備である。

ベットタウンと称されるものは、その最もたるものであり、周囲との繋がりは希薄である。

2-2. 動向

インフラ整備は、都市部で働き、郊外で住むことを可能にした。効率的な生活が求められているため、現代の暮らしに多く見られる。その一方で、大自然の中でゆっくりと過ごすような、癒しのある生活をしたいという人も増加している。

「効率的な移動の生活」への欲求と「大自然での生活」への欲求は、両立できないものであった。そこで、本設計では、この二つの欲求を両立させる。

3. 現代集落

現代の暮らしに、集落の本質を適用させる。その上で、集落の共通した生業で集まった暮らし方は、生業が多様化しているため、不可能である。しかし、「効率的な移動の生活」への欲求と「大自然での生活」への欲求は、現在求められているため、この二つの欲求のもと集まり暮らすことは可能である。

現代の欲求に適用させた集住体を現代集落とする。

4. 敷地

4-1. 敷地選定条件

インフラは、「効率的な移動の生活」、「大自然での生活」への欲求を結びつける可能性があると考えた。よって、敷地は、最も早く移動ができる高速道路沿いで選定する。

4-2. 敷地

敷地を高知県香美市土佐山田町曽我部川にある高知自動車道の高架下に選定する。都市部から離れすぎず、豊かな自然も有し、二つの欲求が両立可能な場所となっている。

Modern commyunity~dual commyunity~

Oomori　tuyoshi

この敷地は、上が高速道路であり、車が多く行き交う「流れの速い空間」。下は、豊かな自然が広がり、車通りがほぼない「流れの遅い空間」。つまり、相対する性質の空間が、近くに存在する場である。

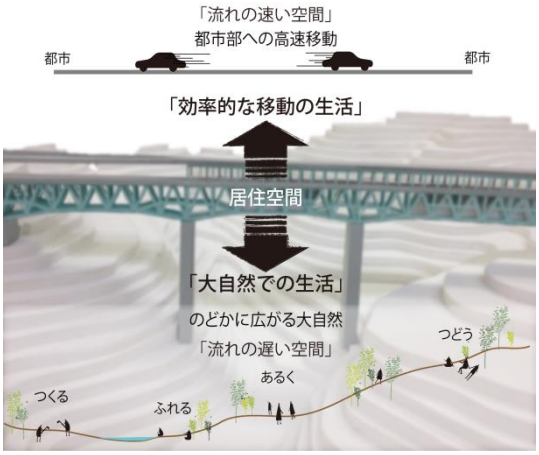
「流れの速い空間」では、車で高知市内まで、約 20 分で行くことが出来る。一方で、「流れの遅い空間」では、大自然の中で、ゆっくりとした時間を過ごすことが出来る。

5. 現代集落-双対村の提案-

5-1. 全体構成

現代集落として「双対村」を提案する。「双対村」とは、「効率的な移動の生活」、「大自然での生活」という対になっている欲求が、「流れの速い空間」と「流れの遅い空間」で、満たされている場所である。

ここでは、高架下の余剰空間（トラス部分）に、居住空間を設ける。



5-2. アクセス処理

居住空間から、「流れの速い空間」と「流れの遅い空間」にアクセス出来るように、処理を行った。

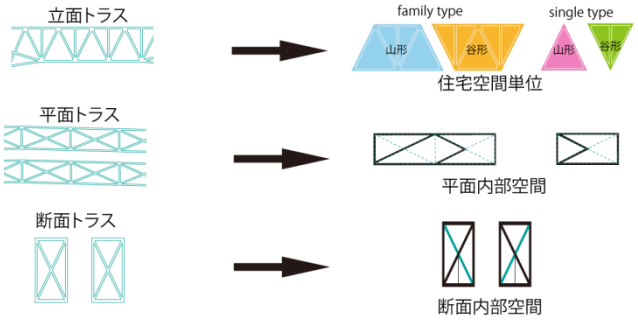
橋脚の位置が、エレベーターと階段を使って、二つの空間に、アクセスできる場所となっている。

「流れの速い空間」では、車やマイクロバスで、目的地へと高速に移動が出来る。

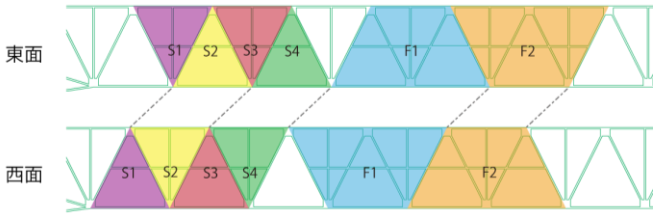
「流れの遅い空間」では、地上に設置されたデッキから、大自然の中へと入っていく。そして、大自然の中で、ゆっくりとした時間を過ごす。また、アクセス時の階段は、橋脚に沿って屋外に設置している。利用する時に、360°に広がる大自然の風景を楽しむことが出来る。

5-3. 空間構成

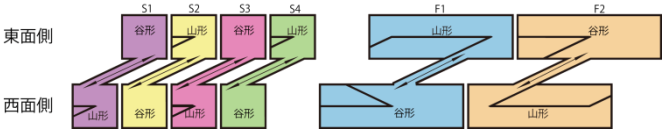
空間は、トラスの部材によって出来たグリットを利用して、構成されている。



1 世帯で、山形と谷形の空間を有する。



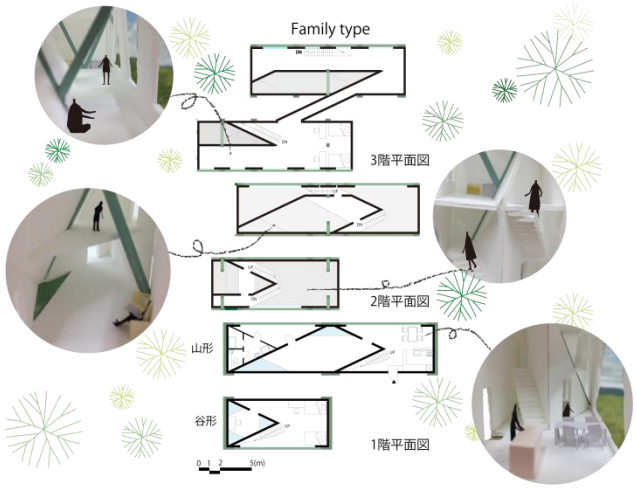
山形と谷形の空間は、廊下を隔てて、東面と西面に配置し、繋ぐ。東面と西面で変わる二つの景色と空間を 1 世帯が、保有することが出来る。



5-4. プラン計画

トラスの部材によって、生まれた空間に従い、生活空間の計画を行った。

住宅空間に生まれた空間には、大開口に面した開放的な空間と、壁に囲まれ、閉ざされた空間がある。それぞれで、違う時間の過ごし方が出来る。



6. まとめ

欲求を満たすために、最適な敷地を選び、敷地の特徴を活かすことで、双対村にしかできない空間が生まれた。